

不登校・発達障がい・教育トラブル

あきらめないで！道は必ず開けます。先ずはお電話を

誰にも相談できなかった。解決策が見つからなかった。

私たちは、子育てや教育に悩み苦しむ親子を支援していこうとする市民活動団体です。

子育てや教育相談、学習や進路相談には、元教師や心理士などがお聞きし助言致します。

小・中・高校世代の子どもの学習には、元教師・大学生・市民などが実情に合わせて個別に支援します。



吹田市民公益活動団体

吹田子ども支援センター

代表 森本英之

元 吹田市立第一中学校校長 支援員
元 吹田市不登校児童生徒代表
元 吹田自主夜間中学校 代表



☆住所 〒565-0851吹田市千里山西1-2-7-102
阪急千里山線関大前駅下車徒歩2分
(千里山西郵便局・階上2階)

☆電話 090-3464-0850



吹田子ども支援センターの活動について

2013年に開設…不登校の親子支援の市民活動

私たち小中高校の元教師、大学生・市民が、不登校生、発達障がい、貧困の親子への支援のため2013年（H25）4月に吹田市千里山関大前に「吹田子ども支援センター」を開設しました。

開設以来、本年度は14年目を迎えています。

2025年度の活動…相談・学習支援の増加

不登校の子どもの現実深刻で、不登校の小中学生は12年連続増加し、全国で35万3970人（2024年度）、吹田市では1055人に至っています（2024年度）。

当支援センターへの2025年度の相談件数は175件、学習支援は2069回に達しました。

光が見えてきました…別冊感想文をお読みください

苦悩する親子の姿、活動の様子、市民から寄せられた声を知っていただきたく、感想文と市民の声の一部を掲載した文集を別冊で作成しています。

文集には、支援センターの諸活動の写真も少しですが掲載しています。

是非ともお読みください。



めざすもの

子どもをささえ 地域でつながり みんなで学ぶ

- ① 子どもをささえる… 相談 学習支援 居場所 (子どもカフェ)
- ② 親・保護者をささえる…子育て教育への相談と助言
- ③ 学校・地域とつながる…学校教育支援と地域連携(市民支え合いネットワーク)
- ④ みんなでまなぶ… 講演会 交流会の企画

不登校…12年連続増加

不登校生 全国で35万人

過去最多 12年連続増

ほとんどが自宅でひきこもり

2024年度 小学生 13万7704人 (2.1%)
中学生 21万6266人 (6.7%)

学年別不登校児童生徒数(全国)

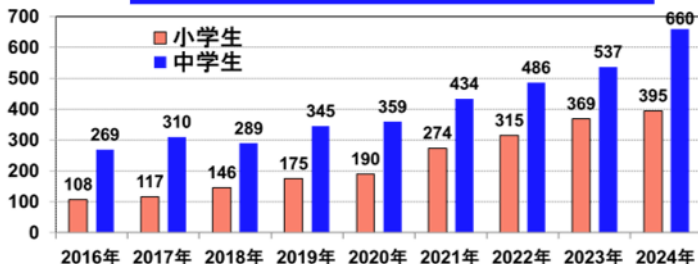


(2024年度 文部科学省調査報告より)

吹田の不登校生 1055名

中学生は クラスに2人

近年は小学生の不登校が増加



(2024年度 吹田市学校教育の概況より)

活動の歩み

- ◆ 2013年 4月1日 千里山（関大前）に開設
- ◆ 2013年 6月1日 開所式
開所式には、吹田市長、教育長、吹田市議会議員、
教育関係者、地域の方々等72名参加。
- ◆ 2013年10月7日 心療内科ショート・デイに協力(学習会実施)
- ◆ 2014年 5月1日 「子どもカフェ」(子どもの居場所)開設
- ◆ 2015年 6月3日 大阪商工信用金庫より社会福祉賞奨励賞受賞
- ◆ 2016～21年度 吹田市地域づくり住民居場所活動補助金受ける
- ◆ 2018年 3月 吹田市子ども・若者支援地域協議会参加
- ◆ 2022年 2月22日 吹田江坂ロータリークラブより支援金を受取る
- ◆ 2022年 5月31日 近畿ろうきんよりNPOアワード奨励賞受賞
- ◆ 2023年 4月1日 阪急阪神未来のゆめ・まち基金を受取る
- ◆ 2025年 5月29日 近畿ろうきん吹田支店より「推しのNPO」に認定される

活動に広がり

(以下の報告は2013/4/1～2023/3/31現在までをまとめて報告しています)

- ◆ 会員・賛助会員・サポーター 183人
- ◆ 心療内科ショートデイプログラムに協力 48回
- ◆ 講演会や懇談会を実施 57回

地域や大学・学生連携

- ◆ 一中校区「たそがれコンサート」 模擬店出店
「千三地区公民館文化祭」 模擬店出店
- ◆ 地区公民館にて「宿題広場」「子どもサポート広場」を開設。
- ◆ 関西大学・大阪大学など教育関係者・大学生との連携

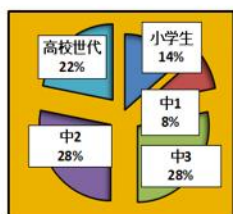
支援センターの活動から

子ども支援事業

子どもの居場所「子どもカフェ」を開設

学習の中心は中学生

2025年度 学習支援（訪問・来所） 2069 回



学習支援

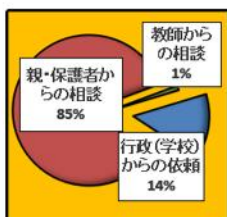
子ども支援は、ほぼ毎日実施！

相談事業…親・学校支援

孤立し苦悩する親子

2025年度 電話・来所相談 175 件

累計2079件 2026年3月31日現在



教育講演会



保護者交流会



親・子・市民から寄せられた声



感想文集



総会



学習支援



相談会



保護者交流会



クリスマス会



地域で模擬店



教育講演会



トランプ遊び

吹田市民公益活動団体

吹田子ども支援センター

感想文集より

親子ともに寄り添っていただきました

…保護者（中3男子Hの母） 2026年3月

息子が吹田子ども支援センターにお世話になり始めたのが、中学一年生の秋からです。

小学生の頃は担任や周りの先生方のサポートでなんとか登校出来ていましたが、中学に上がり、環境や周りとうまく馴染めず、学校に行きにくくなりました。

中学一年生の2学期にはついに学校に行きたくないと言いだし、本人の気持ち、特性も考えて、教室には行かず、別室登校をすることになりました。

学業に関して、学校側とも話し合いをしました。別室登校では、授業のフォローまでは難しいという事でした。

学業面では不安でしたが、とにかく、息子が生活リズムを保つ、また、他者とネット上ではなく同じ空間での交流をする事を目的に何とか別室登校させていました。

親としては、登校するように促しているものの、このままでは息子は日々難くなる教室での授業内容についていけず、学校や勉強が一層苦手なものになってしまうのではないかとこの危機感しかありませんでした。

そんな時に、吹田市教育委員会が開催した支援学級新年度方針の説明会で、偶然隣の席でお話をさせて頂いた保護者の方から吹田子どもセンターの事を教えてもらいました。

藁をもすがる思いで、森本先生に連絡をさせて頂きました。（その時のお母さま本当にありがとうございました。）

入室した頃は、森本先生は、息子との信頼関係と結ぶため、一緒にミニゲームをしたり、息子が話す日々のことを聞いてから学習支援をしたりしてくださっていました。

しかし、進路選択の日が近づいてくるにつけ、息子の自宅での学習の様子やセンターに通う様子から、何とかここで緊張感をもって真剣に学習に向かってほしいと思い、親としてどうしたらよいのかと案じていました。

そこで、自宅での学習では、父親と母親のできる範囲で息子の学習を応援することにしました。

支援センターでの学習も、森本先生だけでなく、平山先生にもお願いするようになりました。

一方、森本先生に相談し、息子の自宅学習を応援するために、土曜日の夜の森本先生の学習の際には、主人も息子と一緒に勉強をするようになりました。

このような日々が始まりましたが、息子にとっては日々大きなプレッシャーがかかってきましたので、些細なことで親子が対立してしまうことも多々ありました。

そんな時に、息子にとって先生方は自分の思いを聞いて貰える唯一の存在になっていたと思います。きっと家庭内のお恥ずかしい対立の話や私たち保護者の悪い所も息子はお伝えしているかと思います。

思春期ゆえの親への反感や愚痴を先生は受け止めてくださり、息子が親には内緒にしてほしいと言ったことは決して私達にはおっしゃらず、彼の気持ちを第一に考えながら精神的にサポートして下さり、見守り続けて頂きました。

中学三年生の秋、いよいよ高校受験が目前に迫る時期になり、本人が焦る気持ちより、親の方が焦る状態が多くなりました。

学校に登校していても、授業は出ていない別室登校のため、ほとんど評定はついていない状態でした。学校の先生方との進路相談では、志望校からは受験しても入学は厳しいと言われたと伝えられました。

進路相談での厳しい話を聞いて、親の私の方が、気持ちが落ち込んでしまったのですが、森本先生の「そう言われることは覚悟の上の受験でしょ。息子さんの頑張りや成長を信じるのが大事」、その言葉が私に渇を入れて下さいました。

その言葉で、結果がどうであれ、彼の頑張りをサポートするのが、親が唯一息子にしてあげられる事だと、改めて気付かされました。

三年生の夏以降、先生方が受験校の過去問題集を解かせては、繰り解説して下さいました。

学習がなかなか定着しない息子ですが、粘り強く、何度も何度も説明をして下さったおかげで、息子は徐々に真剣に勉強と向き合い始め、過去問の点数も次第にアップしていききました。

お陰様で、この春、志望校に合格させていただきました。

先生方が合格を一緒に喜んでいただけたのが、本当に有難く、今までしてくださった先生方の支援にやっと報いることができたのかなと思いました。

合格が決まってから、息子も自分が努力して勝ち得たこの合格によって自信を得たのか、朝から登校をするようになり、また、別室登校ではなく、通常学級にも出席するようになりました。

吹田子どもセンターに出会うことがなければ、この状況はあり得ませんでした。本当に月並みな言葉ですが、感謝してもしきれません。

息子は、吹田子どもセンターは自分にとって、とても大事なところだと言っており、高校生になっても、先生方のところへ勉強したいと言っております。

親の私達にとっても、吹田子ども支援センターは、なくてはならない存在です。

息子が自立するまであと少しだと思いますが、それまで、親子ともに見守っていただけなら幸いです。今後どうぞよろしく願いいたします。

新たな一步を踏み出す息子

…保護者（中3男子Hの父）（2026年3月）

子どもが学校に行けなくなった明確な理由は未だもってわかりません。

恐らく、授業が分からない、周囲になじめない、疎外感を感じるということなのだと思います。

息子は元々、「書く」ことが苦手だったこともあり、そのことで劣等感が刺激されたのだらうという程度でしか認識していませんでした。

しかし、その後「テストの時にみんながテスト用紙にコツコツ書いている音がうるさくて気が散る。」と子どもが発言したときに違和感を持ちました。「俺、もう解らんから書かれへんのに、みんな、コツコツ書いてんねん…」その後、息子は学校に行けなくなりました。中学1年生の期末テスト後でした。

最初、私は学校に対して攻撃的になりました。学校の配慮が足りないせいで子どもが学校にいけないのだとロジックを描いていました。

今思えば、我が子可愛さに何かのせいにしたかったのだと思います。この頃は、まだ息子の状況を自分事としてしっかりと受け止めていませんでした。

一方では、息子を専門家の診断で「発達障がい」などの枠組みに入れることに拒否感がありました。死ぬまで私と妻の子どもである息子、その能力や未来、可能性を他人に判断されたくないという強い思いでした。

息子が学校に行けなくなってからのある時、自宅のベランダから中学生が登校している姿を見て「あいつらええなあ、楽しそうで。」と、ボソッとつぶやいたことを覚えてます。

息子は成長し、自我が目覚め「自分は周囲と違うのだ…」と気づき、周囲と自分を比べて自己否定を始めた息子は辛そうで、また寂しそうでした。その姿は親である私自身を傷つけるに十分でした。

息子の姿を見るにつけ、私は息子に何としても将来の可能性と選択肢を自ら勝ち取る強さや自信を獲得してほしいと思っていました。

幸いにも息子は心まで自分の中に閉じこめることはありませんでした。心は外に出たいともがいているように見えました。それが、私にとっては希望の光でした。

私は事あるごとに息子に「祭りは向こうからは来ない。川の向こうで祭りがあったならば、遠くても橋を渡るか、泳いで渡るかしかない。」と言って聞かせました。

どんなに苦勞しても、ぶざまでも、リスクがあったとしても「ええなあ」と思ったことが向こう側にあれば、獲得するためには自分が動かなければいけないことを言い続けました。

その際、必要なのは、一緒に泣き、笑い、汗を流し苦勞してくれる人や事柄との出会いです。その出会いがの人生の可能性や選択肢を広げてくれると信じています。

そんな時、森本先生との出会いは一縷の希望でした。

自尊心が傷ついた息子にとっては、否定することなく何でも聞いてくれる吹田子ども支援センターは居心地の良いものでした。親への不満や学校の不満、自分の興味があること等を話していたようです。

先生はそれらを聞きながら一つ一つ絡まった感情を少しずつほどいてくれました。無理に勉強をさせず、ゆっくり働きかけながら、息子が勉強に自らが向かうまで待ってくれました。

親はこの「待つ」行為がなかなかできません。親である「責任感」と「普通は〜」「一般的には〜」という物差しでもってつい言葉をかけてしまいます。息子にとってはそれらの言葉は自分と何かを比較する言葉でしかなく、彼に刺さり傷をつけるものだったのかもしれない。

改めて先生の能動的に「待つ」という方針と行為にはとても感謝しています。

私は毎週土曜日に息子と一緒に先生のところにお邪魔し息子と一緒に方程式や、関数の問題を解きました。時には分からない事があると私が質問をし、真剣に中学校の数学を勉強しました。

「間違ってもいい」「分からないことは、もう一回聞けばいい」

親も一緒に同じことすることで「学ぶ」姿勢を見せるようにしました。

私が間違うと、子どもは喜び「父ちゃん間違ってるやん!!」と楽しそうでした。

私より早く解けると「父ちゃんよりはよできたわ!」と偉そうに言っていました。

そういった時間を共に過ごすうちに息子は少しずつ、勉強と向き合い、分からないことを質問し、自分の立ち位置を改めて見直すようになりました。

三年生の秋頃から、次第に登校できる日や教室に入れる時間が増え、友人を家に連れて来れるようにもなりました。

もちろん、その間にも何度も何度も揺り戻しがあり、そのたびに先生が「聞き」「待つて」くれました。

息子は、先生と共にゆっくり時間をかけて、何度も何度も反復しながら受験勉強に我慢づよく向き合い、志望校に合格しました。

私は、息子が獲得したのは志望校の合格だけではなく、それよりもっと大事なも

のを獲得したと思っています。

それは、自分との向き合い方と自尊心、そして自分の人生は自分で切り開ける可能性です。自分で志望校を見学し、自分でいきたい高校を決め、自分でなりたい高校生像を描いたからです。

「なりたいものなれる」という若者の特権を初めてその身で体験したことは息子のこの上ない収穫でした。

収穫は息子行動にすぐ影響を及ぼしました。

不登校になってからずっと遅れて学校へ行っていたのですが、中学生生活も最終盤の今になって初めて1限目から授業に出られるようになりました。

「普通」という物差しでみれば他の子が中1で立てていたスタートラインにやっと立てたということかもしれません。しかし、息子が傷つきながら、再び立ち上がって自ら「立とう」としたスタートラインに自ら立ったことは親としてはとても感慨深いものがあります。

このように文字にしながらかり返してみると、私がよき「親」でいようとしていること、私が持っている「普通」「常識」「一般」といった物差しは子どもからしたら全く必要が無いものだったのかもしれませんが。

今だから言葉にできることですが、私たちの親子関係で必要だったのは「戯れる時間」だったように思います。一緒に問題を解き、一緒に間違えて、一緒に競って…

この3年間苦しくなかったと言えばウソになります。

私自身、子どもの事となるとつらいことは何度もありました。ふがいなく狼狽えることもありました。妻とも何度か大きなケンカもしました。下の子にも我慢を強いることもありました。

まだまだ、子育ては続きます。続く過程において家族の形は変わっていくことでしょう。

振り返れば、この3年間はこれからの変化に対応するために必要な時間だったと思います。

私も親として成長過程なのだと自覚することができました。きっと死ぬまで親としての成長を求められるのだと思います。

最後になりますが、子どもの可能性を信じ、共に歩んでくれた森本先生、平山先生には心より御礼申し上げます。また、引き続きお付き合いを何卒、よろしく願い申し上げます。

※ 2026年3月現在、H君は、支援センターで学習を継続しています。

不登校だった私…感謝しかないです！

… 高校2年生女子R

私は中学二年生の時から学校へ行かなくなりました。朝と夜が逆の生活になっていて、起きるのは夕方、寝るのは朝という不規則な生活をおくっていました。

ごはんも、お菓子を食べるか、夜ごはんを1日1回だけ食べるという生活でした。起きても特にする事がないので毎日ぼーとしていました。

家にばかりずっといるので、最初は何ともなかった外に出るという事が怖くなっていきました。しまいには、自分の部屋のカーテンさえ開けるのが怖くなってきました。こんな生活をずっとしていると将来の不安も出てきました。

「この先、このままだと自分はどうなるんだろうか？自分はいない、誰からも必要とされていない人間だから生きていいのだろうか？」

そんな時に、両親が「森本先生のところに1回行ってみないか」と言ってきました。すぐに決断できなかつたです。でもこのままでは、この繰り返しだと思い、行ってみることにしました。あの頃の私は、多分、笑顔もなく全然しゃべれない子だったと思います。

そんな私を、森本先生や吹田子ども支援センターのみんなはあたたかく迎えてくれました。

最初の1ヶ月ぐらいは、週に1回行くか行かないかぐらいのペースで行っていました。朝と夜も逆転していたので、最初は全然起きられなかつたです。行っても、お昼過ぎに来て少し事務の人としゃべってからすぐに帰っていました。

1ヶ月過ぎたあたりから森本先生に勉強してみないかと言われました。最初は、15分も勉強できませんでした。それが20分、30分と段々延びていきました。人から見たら少ないと思います。しかし、学校に行けなくなって家にずっといた私からしたらすごい事です。

勉強する事によって教えてくれる大学生の人としゃべるようになりました。こうして少しずつ人としゃべれるようになっていきました。クリスマスパーティなど色々して、外にも普通に出られるようになりました。

高校も、最初は「自分なんて行けないだろうな」と諦めていました。

ですが、森本先生や吹田子ども支援センターの人々のおかげで無事高校にも入学できました。高校でのテストで点が悪く困っていた私に、今も勉強を教えてくれています。

私は恵まれていると思います。感謝しかないです。

外にも出られずにずっと家の中にいた私が今こうして外に出られて人としゃべれているのは森本先生や吹田子ども支援センターに出会ったからです。

もしも出会わなければ、外にも出られずに今でも私はずっと家にいたと思います。高校にも行けてなかったと思います。

私は、子どもカフェに入って、人と接せられるようになり、人と接する楽しさがわかりました。

外に出られなかったり、あまり上手にしゃべれなく悩んでいる子に、子どもカフェに行き、勉強だけでなく、人と接する楽しさをわかってほしいです。

(追記)

吹田子ども支援センターの皆さんの支援のおかげで無事高校に入学できました。

中学生の時に勉強していなかったこともあり、最初は高校の勉強に全然ついていけなかったです。その上、部活や通学で毎日遅くに帰ってきました。

そんな私に合わせて、夜遅い時間からや休みの日も勉強を教えてくださいました。私は、基本英語を中心に教えてもらっていたのですが、定期テストの前になると他の教科も教えてもらいました。それが高校3年生の卒業後まで続けました。おかげで、高校の成績はどんどん伸びていきました。

支援センターに最初に来た時は、高校受験もあきらめていた私でしたが、次第に大学受験を考えるようになりました。教えてくれている大学生の進んだ道にあこがれ、大学に行き留学し外国で生活することも考え始めました。行ってみたい大学が出来ましたが、今の自分の学力では足りなくて悩みました。

でも、そんな私に、英語を教えてくれていた大学生は、わざわざ自分の空いている時間を使って毎日のように教えてくれ、ず〜っと励ましてくれました。

高校三年間、受験の前日まで続けました。本当に助かりました

大学受験の時も、その方からもらったお守りを持って行きました。おかげで、高校も無事卒業でき、希望の大学に入学することが出来ました。本当に感謝しかありません。

吹田子ども支援センターがなければ、今の私はないと思います。

今、高校も卒業でき、大学生となり、森本先生に声をかけていただき、今度は、支援センターに来ている他の子どもに教える立場になりました。大学入試が終わってからは、支援センターで小学生や中学生の勉強の手伝いを始めています。

これからは、今まで私ができてもらったように勉強や学校のことなど様々なことを教えたり、また、自分の経験から、悩んでいる小中学生の相談にのってあげられるようになるようにしたいです。

※ 大学を卒業し、教員免許も取得。2026年3月現在は、障がい者支援の仕事をしながら夢に向かっていきます。

外出を拒む子にありがたい訪問支援

… 保護者 (男子Nの母)

私の息子は、小学生2年の3学期から完全な不登校になりました。もうすぐ5年生です。このまま学校には無縁の生活になりそうな状態ですが…。

息子のイライラのコントロールができずに暴力的な大変な時期の事を思えば、今は、とても穏やかで、落ち着いた日々にはなりました。

息子が小学3年生になった頃、悩んでいた私に、放課後ティの方から、森本先生を紹介頂きました。

連絡をとったところ、すぐに話を聞く時間を作って下さり、また一つ、頼れる所が、出来たと安心した記憶があります。外に出ることを拒む息子には、訪問してもらえることはとてもありがたかったです。

すぐに訪問支援を依頼しましたが、数か月後、息子は訪問支援を拒否し、結局一旦離れる形になりました。

数か月後、私の勧めでは全く勉強をやろうとしない息子が、森本先生となら勉強をやると言い出したので、このチャンスを大事にせねばとお忙しい森本先生にお願いし、週に一回の一時間枠を調整して頂きました。

週一回の利用になって一年くらいが経ちますが、やると言いつつもなかなか気乗りしない息子。森本先生は、先ずは関係作りからと色々な提案され、あの手この手で関わりながら、少しでも勉強できるようにと努力して下さいています。

しかし、納得出来ないと何事も取り組まない手強い息子は、なかなか勉強に至らず、今は訪問していただいた森本先生を相手に将棋をする日々です。

全く勉強しなくなり2年近くが過ぎた今、親としては、最低限の勉強はせめてして欲しいという焦る気持ちを押し殺して、ただただ、本人のやる気が出るのを待っています。

森本先生もタイミングを探しながら、関わって下さっています。まだまだ、先は長い道のりです。

勉強に取り組み、色々な目標を達成しているお子さんの報告を羨ましく見えています。いつの日か我が子も…と、微かな期待をしつつも、その期待が子どもの負担とならないように子どものペースでいつの日か目的を見つけて頑張ってもらえたらと思っています。

今後とも末永くよろしくお願い致します。

※ 半年後から教科学習に入り、2026年3月現在は、高校に通学しています。

出合いに感謝！進路が開けた

…保護者（男子Mの母）

息子は、知的障がい者です。中学の進学も支援学校に通うか迷いましたが、将来のことを考えて地元の中学校に通いました。

中学三年生になり、進路を決める事が迫られた二学期、私も息子に真剣に向かい、進路の話をしました。

進路に対する本人の意思を聞くと、自分もみんなと同じような高校に行きたいと言ってきました。親として、息子の気持ちを大切にしたいと思うけれども、息子の願いが実現するとはなかなか思えず、頭を抱えながらも何とか息子の願いを実現させてやれないものかと考えました。

その話を担任の先生に伝えると、担任の先生は驚き、母親の私に「息子が普通の高校へ進学するには、ある程度の成績がないと、まず、受からない」と説明してくれました。実際、息子の成績は、ほぼ内申のみの点数で、入試試験で他のお子様と同じような点数を取ることは考えられませんでした。息子に入試に合格する学力をつけてくれる所を求めて、学習塾など心当たりの所を訪ねてはみたものの、どこも「受け入れます」との良い返事をいただけず、困っていました。

そうした時、知り合いの人から吹田子ども支援センターの連絡先を教えて頂き、電話で相談し、さっそく訪ねました。

森本先生とお会いし、その際に息子の気持ちや障がいの様子、今までの経過や志望校を説明しました。必死に説明したものの、てっきり断りの返事が返ってくるものと思っていた私に「良いですよ。精一杯やりましょう。」の一言が返ってきました。驚き嬉しかった事を覚えています。

さっそく、森本先生の勉強が始まりました。先生が息子に教えて下さったのは、先ずは数学でした。森本先生の求めで、志望校の「過去問」を買い、持参させました。

息子は、人見知りが特に激しく、なかなか心を開かないのですが、息子の目線に合わせ、優しく励まし続けてくれる森本先生に、心を開き、学習しようとする気持ちが少しずつ生まれてきました。

しかし、初めのうちは、森本先生との学習は、およそ30分程度で終了でした。

というのも、息子は、集中して勉強をした経験がなかったので、気持ちが長く続かなかったのです。

毎日毎日、「過去問」から同じ問題を解くのですが、5分後には解き方を忘れ、なかなか定着することはありませんでした。

それなのに、森本先生は、毎日、息子がわかるようにと用紙に解き方を何回も何回も書き、丁寧に時間をかけて取り組んでくれました。

学習を始めて2ヶ月が過ぎた頃から、先生の情熱、熱心な教え方に息子の学習意欲が次第に出てきました。高校への行きたいという気持ちも高まり、集中力も持続してきたのです。

なんと、12月に入る頃、森本先生と毎日1時間30分の勉強をするようになりました。

森本先生から来る毎日の学習の様子を伝えるメールや電話、息子が持ち帰るメモ用紙から学習の様子が伝わり、息子の頑張りが実感できました。

そして2月、私立高校の入試試験を迎えました。合否発表の通知が自宅に届くまで重苦しく時間を過ごしていました。届きました。なんと！合格の文字が…。

森本先生に伝えると「よくやった！」と息子を褒めてくれました。嬉しかったです。

息子のように勉強のしたことのない子どもを一から丁寧に教えてくれる先生に出会えたことが本当に良かったと思っています。

私立高校を併願で合格したことを先生やクラスの人に伝えても、なかなか信用してもらえなかったらしく、次の日、親に内緒で合格通知を学校に持って行きました。

合格通知を手にした子ども達は、やっと息子が本当に合格したことを信じてくれたと当日のことを生き生きと話してくれました。

今までクラスではなじめていなかったのですが、その日を境にクラスの子と会話をするが増えていきました。同じ受験生の仲間として接してくれたようです。

息子は、努力することの大事さを知り、頑張った自分に誇りを持つようになっていきました。親から先生にお願いし、その日以降の全ての科目をクラスの人と同じ教室で勉強することになりました。

私立高校に合格したものの、子どもや私の一番進学させてやりたい学校は、ある公立高校でした。新たな目標に向かって一ヶ月、森本先生との毎日の勉強が続きました。面接練習も何度もしたとのことでした。

3月の公立高校の入試。その面接では、息子の自信が、声の大きさにあらわれ、親の私が今まで聞いたことのない大きな声で志望動機を面接官に伝えることが出来ました。

無事、公立高校にも受かり、念願の高校生になることが出来ました。

高校2年生となった現在も、息子は、毎日元気に通学し、吹田子ども支援センターでの森本先生の学習も、また、他のスタッフの方との学習も続いています。

本当に吹田子ども支援センターに出会わなければ、希望する高校に行けませんでしたし、息子自身の生き方も、変化がないままだったと思います。

息子の目線でサポートしていただける場所に出会えて感謝しています。

本当にありがとうございました。

※ 高校を卒業し、2026年3月現在は企業で働いています。

息子の変化と成長を支えていただいた日々

…保護者（小6男子Eの母親）

小学2年生から不登校、森本先生との出会いは、息子が小学2年生の3学期です。当時のSSWの先生からご紹介で、学習支援のため自宅へ来ていただくことになりました。

当時、ひきこもり中の息子は、当然“学習”に取り組む気など毛頭ありません。それでも森本先生は、あきらめることなく息子のやりたい事（新聞紙を丸めてチャンバラごっこ）に、笑顔でつきあってくださいました。

その春、コロナ禍…。緊急事態宣言と共に支援センターの訪問指導が休業となってしまいました。何かにつけお電話で、深夜遅くまで相談をさせていただいておりました。

その間、“学校へ行かせたい”母は、息子の手を引っ張り、母子登校を続けておりました。当時、不登校児に理解のある先生方の応援もあって、毎日のように学校の門をくぐる事ができるようになっていました。

ずっと母子登校を続けていましたが、なかなか教室に入れない息子、そうした中、やっと息子の気持ちに寄り添え「学校、休もうか。行きたくないなら行かなくても良いよ。」と伝えることが出来ました。息子は、とても安心した顔をしていました。

その後、本当の意味で息子と学校の話をする事ができました。今思えば、それまでは親の思いの重圧をかけすぎていたのだと反省しています。

フリースクールや転校の話をしてみましたが、驚くことに息子は“今の学校に行きたい”と思っていました。

しかし、“学校に行きたい”はずの息子が、登校の時間が来ても動けない、お休みにする。一方では、休み続けると、まじめな息子は“学校に行けない自分”を責めているように思えました。

暗中模索の日々を重ねていました。

そんな時、たまたま教室に入れた理科のテストで満点を取って帰ってきました。満点に気をよくした息子は、“勉強やってみる”と笑顔で話してくれました。

鉄は熱いうちに！と、授業料が高額でしたが息子のためにと、家の近くの大手個別指導塾を訪ねました。

学習塾には、息子の事を事前に説明したのですが、かけ算の九九すら知らず、45分の授業も集中力が持たなかった息子、数日通ったものの個別指導塾から難色を示され…とても悲しく悔しい思いをしました。

そんな時、森本先生が「外へ出て、通えるようになったら支援センターへおいで。」と言って下さっていたのを思い出し、早速、連絡。先生は快く受けて下さいました。

ただ、我が家の事情で、塾への送迎の問題と、学校以外、外出しない、ひきこもりの息子が2駅離れた支援センターまで行けるのか……。不安がありましたが、なんとか送迎の問題も解決し、いざ!!支援センターへ!!

家から出るのを渋る息子を車に詰め込み、出発!!

息子が5年生の10月終わり頃でした。

久しぶりにお会いした森本先生は、相変わらず目じりの下がった優しい笑顔。大きく迫力のある声で「久しぶりやなあ!」と迎えて頂きました。極度の人見知り陥っていた息子は声も出せず、ただ、うなずいていました。当時はコロナ禍終盤で、アクリル板越しのお互いマスク姿での再会でした。

私が「チャンバラごっこやってくれた先生やで!」と伝えると「覚えてる…。やはり最初は、机に向かうことさえがしんどい様子でした。勉強というより、まず鉛筆を持つ事。字を書く事。全てが辛そうでした。

森本先生は、そんな息子の様子を察し「ゲームやろうか!!」と「ブロックス」を息子に教えてくださいました。「先生は大人げないから、本気で勝ちにいくで!」と、満面の笑み。相変わらず人見知りの息子は無言のまま、頷きながらルール説明を聞き、ゲームを始めました。

その後いつ頃からでしょうか…。極度の人見知りの息子は、森本先生へ生意気かつ反抗的な、ユーモアたっぷりな返答をするようになりました。先生は、その生意気な返答を面白がって聞いて下さり、「面白い子ですよ!」と失礼な発言にも目くじらを立てず、余裕の笑顔で正面から向き合ってくださいました。

ただ、やはり最初は支援センターへ行き渋り、毎回、毎回、遅刻…。ですが先生は、来るか来ないか分からない息子の為だけに、每晚必ず支援センターを開けて待っていて下さいました。

渋り・渋りの学習でしたが、そのうちに…なんと!息子は鉛筆を持ち、字を書き、勉強に取り組めるようになっていました。息子が変化し成長していく姿を目の当たりにし、森本先生の経験値の高さと指導力・優しくも厳しい心と寛大さ……。そして、何より子どもに対する愛情の深さをひしひしと感じました。真の教育者です。

「1年続いたら、お寿司やなあ!」と森本先生からの励ましもあり、ぐんぐん学習が進んでいきました。「よし!春までに5年生の学習を終わらせるぞ!」と明確な目標を頂き、学習が楽しくなってきた息子は、週1回から週2回へ、1日3時間も学習に取り組めるようになっていました。

そして目標通り5年生までの学習が終わり、6年生の1学期には、小学校の授業に追いついたのです。

「僕、中学から学校に行ってみようかな。」学習への自信がついた息子は、笑顔で話してくれました。6年生の夏休み中のことでした。

そこで、主人と話し合い、息子の背中を押して頂けないかと森本先生にお願いをしました。

すると、息子は、支援センターから帰宅後「2学期から学校行くよ!」「勉強もできるようになったし、僕は大丈夫だって!」と自信に満ちた顔で嬉しそうに話してくれました。

その後、本当に2学期の始業式から、1人で朝から登校し、6時間目まで、毎日通えるようになったのです!!

一体、どんな魔法を使ったか…? 森本先生は魔法使いです。

2学期は、最後の体育祭・音楽会・修学旅行と行事の多い中、全ての行事に参加し、卒業文集に修学旅行の思い出を書き綴っていました。

3学期は、登校日数が減速してしまいましたが、卒業式の日は、早くから家を出て堂々と胸を張り、クラスのみんと一緒に卒業証書を受け取ることが出来ました。

その間、森本先生には、念願の“お寿司”に連れて行っていただいたり、我が家の事情で送迎不可能な時は、自宅まで迎えに来て頂いたり…と、多方面で応援していただきました。本当に感謝しても感謝しきれません。

山あり谷ありの小学校生活でしたが、森本先生をはじめ、多くの小学校の先生方に応援して頂き、息子は幸せ者です。

この春から、中学生になります。

心配事は山ほどありますが、迷ったときには、指針を示してくださる“魔法使い森本先生”のご指導のもと、親子共々、成長を続けていけたらと考えています。

※ 2026年3月現在、支援センターでの学習を継続しています。

娘に笑顔が戻りました

保護者 (女子Tの母)

娘が学校に行けなくなったのは、小学校3年生の冬でした。

はじめはただの風邪だと思いましたが、数日後には起き上がれなくなり、部屋を閉めきって、怯えたように暮らすようになりました。学校はおろか、外出もできなくなりました。

病院の心身症外来で、起立性調節障害と、目で見て認識する力が弱いという診断を受けました。場の空気を読んだり、行間を読むことも苦手ということです。

入院して院内学級に通い、体調は少し良くなりました。退院後、支援学級に移り、様々な配慮をしていただきました。けれども通えませんでした。1年以上経って、

本人にとって学校が恐怖でしかないことを親がやっと理解しました。

小学校には行かないことを決めて、その後は、フリースクールや放課後デイなど色々なところに行きました。けれどもどこに行っても娘の表情は硬いままで、見学だけで諦めるようなことが続きました。

知り合いの方から支援センターのことを教わり、ここならばと思い、連絡をとりました。初めは母のみが相談に行きました。森本先生にこれまでのことを聞いていただき、『娘に何を言っても、「知らん」「わからん」と、他人事のようにしていることが、とてももどかしい』と訴えました。

森本先生は、「行けるくらいなら、学校に行っている。それでも行けないから行っていない。」「学校に行けないことの辛さを、子どもは絶対に親には見せない。」と話してくださいました。子どもを責める気持ちが小さくなり、心が一気に軽くなりました。家に帰って、面談で聞きたいいろいろなことを話すと、娘もうれしそうに「わかってくれる人もいるんやなあ」と言いました。

後日「あの先生のところ、いつ行くの？」と、娘から言ってきました。先生に連絡すると、家庭訪問に来てくださいました。5年生の1月でした。お話をして、娘が一瞬で心を開いたのがわかりました。先生が来られた日は鼻歌が出て、家の中が明るくなりました。

まもなくカフェに通うことになり、カフェには親が車で送り迎えをしました。カフェでは、初めはお話を中心でしたが、次第に学習も始まり、「大丈夫、できる」と、どんどん授業の日数が増えていきました。カフェでは、中学生の方とも知り合わせてもらいました。

しばらくして、娘が一人で動けることはとても大切だと、一人で自転車で通うよう勧めてもらいました。

娘は、外に出る時には、同級生に会ったらどうしよう、人に見られるのではないかと、とても緊張するようです。先生はそのこともよくわかって下さっていました。初めて一人で自転車でカフェに通った日、先生に付き添っていただいたことが、大きな安心だったと思います。

自転車でカフェに行けるようになってからは、「一人でできる。お母さんは過保護過ぎ。」と言い、急に自信がついたようでした。

ある日、娘が「私も大学行けるんや。」とぼそっと言いました。それから、将来の夢を語るようになりました。しばらく考えもしなかったことでした。そして、「留学したいから、この中学校を受けたい」と言い出しました。森本先生と出会って、わずか1~2か月後のことです。

森本先生が受験のための学習計画を組んでくださいました。その中で、たくさんの先生に勉強を教えてくださいました。学校の先生だった人やボランティアの市民の方、大学生の方で、とてもバラエティーに富んだ素晴らしい先生方で、本当にあ

りがたい出会いでした。

娘は人との関わり方が不器用で、対人関係で経験不足ですので、集団や同年代の方の中に入ることは難しいです。本人の様子に合わせて丁寧にすすめていただいたと感謝しています。

ずっと順調なわけではなく、夏休みの時期から2〜3ヵ月全く通えなくなりました。体調も気持ちも戻らず、再度入院しました。

その間も、先生は連絡をくださり、寄り添っていて下さいました。入院先病院のカンファレンスにも来ていただきました。

定期的な母との面談では、現状と目標の確認もありますが、母子の関係について、たくさん話していただいています。

『何でも子どもの言いなりの親』も、『管理しすぎる親』も、子どもにとってはものすごく不幸ということがわかりました。

まだまだ私はのめりこみ過ぎるのですが、心に留めて、子どもに接するようになりました。

11月からは、受験科目に絞って、森本先生に家庭訪問でみていただきました。終盤は、先生の鬼の迫りに圧倒されながら、受験に備えました。

おかげで「がんばった」という気持ちで試験に挑めました。

合格発表の時、いつもクールな娘が、「やったー！」と声をあげました。本当にうれしかったのだと思います。

入学が決まった後も体調が悪い日が多く、すべてが解決したわけではありません。けれども、不安ながらも入学を楽しみに過ごしています。この先何があっても、「カフェがあるからなんとかなる」と本人は言っています。本当の意味での居場所を見つけたのだと思います。

学校に行かなくてもいいよと言ってくれる人はたくさんいますが、じゃあ学校に行かずにどうすればいいのか、その先どうなるのか、を示してくれる人はありませんでした。娘には学習の支援が大きな力になりました。

とはいえ小学校に3年弱しか行っていません。ゴールを見据えた方針のもと、手取り足取り教えて頂くことが必要でした。

普通の家庭教師では、経済的に無理でした。

何より、娘と親が安心してついていけたのは、吹田子ども支援センターだったからだと思います。支援センターに出会えて娘は本当に幸運です。

ありがとうございます。支援センターの活動が続き、私達のように救われる親子が少しでも増えるといいなと思います。

※ 子どもカフェとは、センターの子どもの居場所兼学習室の事です。

※ 地元公立中学校に通った後、高校、大学に進学し、2026年3月現在は、大学在学中です。

大好きな部活を辞めずに高校受験に取り組みました

…保護者（女子Hの母）

吹田子ども支援センターは、放課後ディサービスの先生の紹介で知りました。支援学級に通っている弟がお世話になり始めたある日、迎えに行った時に森本先生に姉のことを相談しました。

中学2年生になっていた姉は、いくら勉強しても学校のテスト点数が取れず、本人もどう勉強していいかわからない状態。親も塾を変えさせたりもしましたが結果がついてきませんでした。

このまま結果が出ない場合には「クラブを辞めなさい」と父親が言い、親も娘も崖っぷちの状態でした。

森本先生とお話させていただき、即座に「一度支援してみましよう」と言って頂きました。

学習支援の当初は、本人の学習定着度が低いことを踏まえた指導でした。

そして、先生からの勉強の進行具合を毎回ラインで教えて頂き、親からの言葉かけの助言も頂きました。

一番ありがたかったのは、子どもが頑張っていた部活のことで。

中学校で部活に入ったときから、勉強のことが心配だったので、平日は途中で帰ってきて塾に行く生活をさせていました。

それでも成績が上がらず、もう部活を辞めて勉強に専念しないといけないと考えていた時期でした。

先生にお話を聞いてもらった時に、「部活は頑張っているようだから、支援の時間を部活が終わったあとでもいい。部活は最後までやらせてあげよう。できるだけサポートします。」と言って頂きました。

本人も平日途中で帰ってきていたのが週2回は最後までできると喜んでいました。

大好きな部活に力をいれることで、勉強を頑張れる力になっていきました。

約2年間、部活をやりながら塾と支援センターに通う生活を続けました。

塾だけでは、どうしてもわからないところがあり困っていましたが、支援センターで基礎を先生方に何度も教えてもらい、塾でもう一度復習することができるようになりました。

中3になり毎日毎日支援センターと塾に行って勉強を続け、家で勉強のスイッチが入らないため、空いている時間は塾や「子どもカフェ」で自習をする生活を続けました。部活は引退の時期まで続け、完全燃焼することができました。

本人は先生方に出会うまでは、何やってもできないと思っていましたが「人間は忘れるのは当たり前」「わからなかったら何回も聞いて、何度も問題を解く」ということを教えて頂きました。

コツコツ続けて、自分が希望していたコースがある高校へ合格することができました。

先生方に出会わなければ、自分がコツコツやり続ければできるんだということがわからなかったと思います。

先生方が、根気強く教えてくださったこと感謝しています。

ありがとうございました。

2026年3月現在は、高校在学中です。高校でも部活動を続けています。

突然の不登校…追いつめられていた私

…保護者（男子Hの母）

私の子どもが、不登校、登校、進学となった時に、最もお世話になったのが吹田子ども支援センターです。

この出会いがなければと考えること事態が恐ろしいです。

ある朝、子どもがなかなか起きず、結局欠席しました。普段の体調不良ではなく、いつもと違う雰囲気でした。翌日も、翌日も……。

ただ事ではないことが、始まってしまったのを感じました。

外出も出来ず、友達とのスマホのやり取りもやめてしまいました。風呂にも入らず、布団に寝転んでいるだけ。子が心配で、私は仕事を休んでしまいました。

どうしたのかと聞いても何も答えません。言葉や態度で突っかかってきます。それを強く突っぱねる事も、本質に切り込むことも強く迫ることも出来ませんでした。…私が巻き込まれ支配されていたのでしょうか。

私の胸中は苦しく、家の中は重苦しく、聞いてはいけない、話してはいけない、とNGばかりでした。私は、玄関を閉め出されたり身の危険を予想することも度々でした。色々な相談所に行きました。

そんななか、私の友人から教えてもらったのが、吹田子ども支援センターです。

初めて夫と訪れました。とても親身になり、相談に乗っていただきました。

以降、切羽詰まった時には、休日も時間にも関係なく相談してしまっていました。

森本先生は、一方的な指導ではなく、子どもの気持ちを推測して具体的に対応策を考えてくれました。私たち夫婦のパーソナリティのパターンを深く省みる専門の先生の紹介もしていただきました。

他の所では「子どもの気持ちを聞いてみましょう」と指導されたり、管理的な事を言われることが多くありました。私は、それを参考にするどころか、それに追い詰められていたのです。

森本先生の助言は、本当に有り難かった。何より、私が子どもを信じ続ける力になりました。

登校しだしてからもはらはらのしどおしで、常に私は先生に支えてもらっていました。今、私達は、落ち着いた生活です。吹田子ども支援センターのおかげだと深く感謝しています。本当にありがとうございました。

2026年3月現在は、大学在学中です。

まさかうちの子が !!

…ありのままの自分を受け容れてくれる居場所に出会えました…

小4女子、小2男子の母親

「不登校」という状態は、今になって振り返ると、誰でも、どんな子であっても、なり得るのだな…と、感じています。

ふとしたことがきっかけだったり、見えない何かの蓄積だったり。

どんなことがあっても、子どもに本気で寄り添い、全力で支え、子どもの未来に責任をもてる大人でいたいと、強く思います。そう思えるのは、「吹田子ども支援センター」との出逢いのお蔭です。

娘と息子は、保育園ではとても明るく、友達とも仲よく遊び、先生方の話もよく聞き褒められる、素直な子たちでした。

ふたりはそれぞれ小1の夏休み明けに、少しずつ登校しぶりが始まりました。繊細な姉は大阪北部地震のショック、ADHD グレーの弟はコロナ禍での学校のピリピリした空気に、一気にしんどくなってしまったようです。

私も、多くの親御さんがおそらくそうだったように、「まさかうちの子が」と、最初はとても信じられない想いでした。それでも家では必死に笑顔を作り、自身

を責め続ける想いもこらえ、冷静なふりをして丁寧に彼らの話を聞こうとしていた記憶があります。

それでも、娘は「怖い」と、毎日泣き続け、奥の部屋の隅でうずくまって動けない日が半年以上続き、何を話しかけても震えるだけで、家庭内は重い空気に包まれていきました。

小学校の先生方、SSWさん、教育センター、児童精神科医、児童デイ、ファミサポ援助員さん、人のご縁には幸い恵まれており、たくさんのサポートをいただきました。

彼らの安心できる、「居場所」を必死に探していました。

ある晴れた日、父親が子ども達を公園へ連れ出し、偶然、同じ保育園の母子友だちと逢いました。

そのとき、吹田子ども支援センターの存在を教えてもらったことがきっかけです。これまで自力で調べた機関は正直高額で家計的にとても厳しかったり、遠方だったり、障害認定がないと利用できなかったり…で、半ばあきらめていました。

初めてセンターに伺った日のことは、一生忘れられません。

何かを言わなければ、説明しなければ…という母の焦りをそっとなだめ、まず、娘本人の目をまっすぐにみて、優しく話しかけてくださった森本先生の笑顔に、ああ、これは大丈夫やな、と確信しました。

緊張してカチンコチンに固まっていた娘も、話題豊富で明るい森本先生のお声がけ「趣味や得意なこと、何?」「やってみたいことはある?」に、少しずつ心がほぐれていき、「お菓子作るのが好き」「おお!じゃあ、お菓子屋さんをしている教え子がいるから、その店で、こんど一緒にクッキー作ろう!」と。そのときはまさかと思ったのですが本当に実現してしまい、先生の行動力の早さと約束を必ず守る姿勢に、心から感謝、尊敬しております。

思春期の繊細な娘には優しいお姉さんが良いだろうとおっしゃって、現役大学生の不登校経験のある方に学習を見ていただけることになりました。

とても性格が合うらしく、母子以上に仲良く盛り上がり楽しく過ごし、学習している姿が、本当に心強くありがたいです。

「私不登校ですが、それが何か?」と、母に笑って言えるようになったのも、ありのままの自分を受け止めてもらっている居場所への安心感があるからこそなのでしょうね。(外では言えませんが、笑)

二つ年下の弟が不登校になった際も、相談してみると、いらっしゃいと即答し

て頂きました。変化球タイプで落ち着きがない弟にも、一緒に面白がりながら心から楽しそうに（もしかしたら先生ご自身が一番楽しいのかなと思ってしまうぐらいの無邪気な感じ）接してくれて、なかにはすぐそばの消防署や高速道路にも連れ出してもらう日もありました。

本人の良い面を認めて褒めて、でも言うべきところはハッキリ伝えて、学習もそれぞれのペースで進めてくださり、この子達が90分間ずっと椅子に座っていることが…親にとっては奇跡としか言いようがなく、もう本当に、感動するのみです。

子どもだけでなく、母親が相談する時間もしっかりとってくださり、メールやラインには必ず丁寧なお返事をいただいています。

参考書籍や支援機関の具体的なアドバイスも受けました。センターが昨年のコロナ蔓延で活動休止になった間も連絡や自宅訪問をしてくださり、昨年末に父親が過労で倒れたとき、私たち家族がコロナ罹患で1か月連続の自宅療養となったとき、などなど、数えきれないぐらい相談に乗ってもらい励まされました。

森本先生のスタンスとしても、無理やり押し付ける感じは全くなく、こちらが必要としたときは夜間でも休日でもいつでも返事をくださる距離感が、とてもありがたく心強いです。

週に一回お世話になりながら、学習支援だけでなく、家庭的なほっとする雰囲気の中で、子どもも親も、貴重なお時間をいただけているご縁に、心から感謝しています。

どうか、この温かな場所が、これからも多くの方に伝わりますように、と、祈っています。

「どんな子どもにも無限の可能性がある」といいます。「学校」の教育現場で先生方が日々精いっぱい取り組まれていることには尊敬しています。

一方で、「不登校」など集団生活への不安に苦しんでいる子ども達がたくさんいる現実、親もまた追い詰められ、居場所を必死で探し続けている。ひといちばい繊細だからこそ不登校やひきこもりになってしまっている子ども達に、本気で寄り添い、必要なサポートをし、その子にしかない能力を引き出すことができたなら、将来その子たちが大人になったとき、社会にとって大きな戦力になるはずです。

センターや森本先生への恩返しとしても（一生かかっても返しきれないですが）、一人の大人としても、何ができるのだろうか、と、ずっと、考えています。

これからも波乱は続くと思いますが、いまは未来を信じていることができます。

いつも、支えてくださり、ほんとうに、ありがとうございます。

2026年3月現在は、弟が支援センターでの学習を継続しています。

貴重な出会いに感謝

…今は、夢に向かい歩む娘です…

…保護者（女子Mの母）

娘は中学一年の時からこちらでお世話になりこの2月に無事に志望校に合格することができました。

こちらにお世話になる前の娘の状態は、学校へ登校していると思っていたら後で引き返してきて部屋の布団に引きこもっていたり、嘘をついたり、もちろん目標もなく勉強する意欲もまったく感じられない状態でした。

見かねた母親の私は、がみがみ叱りつけるだけで、親子の関係も最悪の状態でした。その時の私の心境は、希望もなく解決方法もわからず本当に疲れ切っていました。

そんな時に学校のカウンセラーの方の紹介で、森本先生に出会い、こちらにお世話になることになりました。

初めは、娘の胸にたまったどうしようもない想いや出来事などの話を先生方は根気よく聞いてくださり、娘の良いところを見つけて伝えてくださり段々と娘も先生方を信頼して心を開いていっているようでした。

学校は行きたがらなくてもこちらにはどんな時でも休みながら約3年間、自転車で約30分の距離を雨の日も寒い日も暑い日もひたすら通っていました。

そうこうしている毎日の中で、娘は将来、看護師になりたいと言い出しその目標を先生方は温かく応援して下さりなんとか希望した看護学科のある高校への入学も決まりました。

私は、娘の良いところも見つけられず、信頼もできず苦しかった1年生の時を振り返ると本当にこの貴重な出会いに感謝しています。

高校受験が終わったので私は、3月でこちらも卒業かなと考えていましたが、娘の強い希望もあり、無事に看護学校に入学するまではこちらに気にせずに通っていいとの森本先生の言葉に甘えて通わせて頂くことになりました。

道半ばですが、このまま諦めずに将来の自分の夢を実現して先生方に恩返しをしてほしいと思います。

そして、笑顔のなかった娘がここまで元気になれたことに、森本先生、寺島先生、李先生、その他の先生方にこの場を借りてお礼を申し上げます。

また高校3年間どうぞよろしくお願い致します。

※ 2026年3月現在、社会人となり働いています。

子育てはみんなが悩んで歩んだ道

ご相談ください！先ずはお電話を！

不登校・発達障がい(凸凹)・学力や進路・教育トラブルなど

教育や心理の専門家が助言や支援を行います！

面談は、電話予約をお願いします。



- ◆ 閉館曜日 必要に応じて平日・土日・祝日も毎日対応
- ◆ 閉館時間 必要に応じて(午前・午後・夜間も対応します)
- ◆ 電話相談 緊急以外は10時～20時まで(15分以内をお願いします)
- ◆ 面談 1時間以内2000円 1時間以上3000円
- ◆ 学習支援(センターでの支援、家庭訪問支援)の料金
入会金 なし 小・中学生60分以内2500円 高校世代60分以内2800円
教材費 実費 その他詳しくはお問合せください。
- ◆ 出張費 吹田市内 2000円+交通費 吹田市外3000円+交通費

※ 不在の場合もあります。

入室前に、必ず入室確認の電話を入れてからお越し下さい。

吹田市民公益活動団体

吹田子ども支援センター

〒565-0851 吹田市千里山西1丁目2-7-102

阪急関大前駅北改札口西側

千里山西郵便局階上2階 202号室

電話：090-3464-0850

携帯メール：suita0850@docomo.ne.jp

PCメール：suitakod0850@yahoo.co.jp

H P：<http://www.suita-kodomosien.org>

